

「笑顔で登校、笑顔で帰宅」をめざして 家庭・地域と協働する学校づくり

コミュニティ スクール

NO.32

C S 通信

2025年6月30日
発行：布水中学校運営協議会
布水中学校校長 若狭朋幸
地域学校協働活動推進員 塚本 茂樹

6月8日 「咲かせよう人権の花」

人権擁護委員さんより、お花の苗をいただきました。この「人権の花運動」は、1989年の国際連合総会において制定された「児童の権利に関する条約」の日本における批准を記念し、平成8年度から行われています。趣旨は、学校に配布した花の種子や球根などを、こどもたちが協力し育てることによって、生命の尊さを実感し、その中で、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的としたものです。



CSDの塚本です。今月は「人権」というキーワードで、校内を見ていました。掲示物や職員室での声で、ちょっと気になることがありました。朝礼での学級指導で「昨日〇〇なことがありました。皆さん充分気をつけてください。」というお話しです。よくよく生徒指導部の先生に聞くと、地域からの電話で「先生が対応し指導する。」こういった事案が複数件ありました。例えば、下校中の自転車マナー、店舗内で行動（通路で立ち止まり話し込んでいる）など、その場で注意していただくと効果的だと思える事案が多くありました。どうぞ、地域の皆様、生徒たちが「笑顔で帰宅」出来ますよう、ご協力をお願いします。出来れば、「こんなことで声掛けしたから」とご報告のお電話をいただけるとありがたいです。ののいちっ子は地域で育みたいですね。その時の声掛けとして、子どもたちを「怒る」のではなく、「叱って」ください。違いは、裏面にまとめました。

「怒る」と「叱る」の違いを比較してみました。

ともに強い口調ですが、表のような違いがあるように思います。

怒る	叱る
右脳優位	左脳優位
怒りの感情を発散させ、自分はスッキリする。	なぜこのようなことが起きたのか？ 今後どうすれば良いのかという視点で話す。
過去重視 起きてしまったことに対して、文句を言う。	未来志向 今後どうすべきか？解決策を問う。
感情に任せて、言いたい言葉を放つ。	理性で、相手に伝わる言葉を選びながら、相手が受け止めやすい言葉で伝える。
自分の感情が大切で、相手を批判する。 結果、相手は心を閉ざしたり、自信を無くしたりします。	相手を認めながら、批判的にならずに客観的事実に基づいて対処します。

自分の怒りのスイッチは、どこにあるのか見つけておくと、いざ怒りたくなった時に、叱るに変換できるかもしれませんね。

- ◎ 今、自分は感情的になっている。
- ◎ この怒りは誰の為なのか？自分のために怒っているのか？
- ◎ 誰を大切にしたい発言になっているか？ 自分？ 相手？
- ◎ 相手を批判していないか？

このように自分で自分をチェックしてみるといいかも知れませんね。そして、最終的には「怒る」ではなく「叱る」にシフトできる方が、自分のためになるかも知れませんね。

「笑顔で登校、笑顔で帰宅」

をめざして 家庭・地域と協働する学校づくり

地域学校協働活動推進員 布水中学校担当の塚本 茂樹です。

この「CS通信」はコミュニティースクールとして、活動したことや活動していききたい事を含め私自身が中学校内で、感じたことを保護者や地域の皆様へ発信していきたいと思えます。

もちろん、中学校という教育機関の中で起こることですので個人情報などには充分配慮し、学校長の許可を得たもののみを発信しています。

お問い合わせは

布水中学校運営協議会

地域学校協働活動推進員 塚本 茂樹

E-Mail :

fusuityu_csd@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp

まで、メールでお願いします。